

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あたたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴言・暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。 2 社会人基礎力(特に挨拶できる力)を育てる。 3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力を定着・伸長を図る。 4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。			
分野	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
学習指導	教育課程	1 生徒の実態に即した教育課程、シラバスの具体的な研究を深めるとともに、新教育課程における学校設定科目の適正配置を進められたか。	B	生徒の興味・関心に加え、進路実現にもつながるような学校設定科目の配置や少人数講座による授業に努めた。しかし、生徒数減少の反面、少人数内での基礎学力差が目立つ実情にあり、限られた教員数の中で多様な選択を可能とする講座設定は年々困難となりつつある。学校設定科目の配置については、観点別評価の視点を向上させ、生徒の状況に寄り添い適正に行うことができた。そのうえで、さらに教授内容の研究を進め授業力を高めていくことを課題とする。	特に3・4年次生の必修以外の科目について、進路希望に沿える学校設定科目は何か、またそれらを有効に配置した科目選択及び授業展開とはどのようなものか、といった検討が必要である。更に左記の実情を勘案すれば、「学習実態把握を踏まえ、生徒個々に応じた具体策を」との観点で、今後更に重要と考える。年々違う様子を見せる生徒一人ひとりの理解を進め、生徒の特性に応じた教材研究や授業づくりを行う。
	授業の充実・改善	2 多様な生徒や観点別評価に対応した授業展開の研究と職員の協力体制の構築を図り、少人数学級・講座の特長をいかしたか。	B	生徒個々の状況に応じ、一つひとつ理解できることを積み上げていったり、視覚的な効果等を目的としてICT機器を利用した構成等により授業構築を進めた。観点別評価を活かした授業展開については改善を図る必要がある。	生徒の主体的な学習への支援等に主眼を置き授業づくりをさらに進める。ICT機器操作やソフトについても研修を入れ教職員の技量の向上を目指す。
生徒指導	安全・安心な学校づくり	3 お互いを尊重し合う心を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取り組みを行うことができたか。	B	生徒達は落ち着いた学校生活を送っており、授業に対しても集中して取り組む生徒が大半であった。しかし、安定して出席できるように支援することが来年に向けての課題である。また、登校中の交通事故の事例が複数起こっていることから、登下校での交通安全指導も必要であると考えている。	各生徒についての理解を一層深め、支援をしながら生徒達が、安定的に出席できるよう関係部署と連携しながら対策を行う。交通安全指導については、自転車通学の生徒には、ヘルメット着用の指導を積極的に行う。
	生徒理解を深める相談支援	4 生徒相談・カウンセリング体制の充実を図りながら、個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動の充実につなげる支援を行うことができたか。	A	6月には全校生徒にむけて発達障がいサポートマネージャーの先生から他者とのコミュニケーションの取り方について講演していただいた。また、松本市の西部保健センターより講師を招き悩みを抱えたときのSOSの出し方について講話を実施した。生活面でさまざまな困難を抱える生徒が多く、担任と係の職員だけではなく全職員で情報を共有するとともにカウンセリング体制もより充実させていく必要がある。	校内職員だけではなく中信教育事務所、生徒の在住市町村の福祉関係部署との連携をより一層図る。教員研修の実施を検討する。
進路指導	進学、就職指導の充実	5 一般常識・課題を突破できる力をつけ、進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に対応できたか。	B	学校設定科目(ベーシック国語、数学、英語、社会)を実施することで、教科の基礎力アップを図った。また、卒業年次生には、進学・就職試験に備えて、担任・進路担当を中心に、個人面談や個別指導も行った。単位修得や卒業を目指すことに重点を置いた指導となり、具体的な進路指導には至らなかった。	学校設定科目(教養基礎、就職チャート、ベーシック)等による学力の伸長を図るとともに、個別指導についてもさらに充実させる態勢を整える。
	キャリア教育の推進	6 自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な探究の時間」等の中で、体験活動を体験させることができたか。	B	「総合的な探究の時間」を中心にハローワークから講師をお招きしたり、卒業生によるパネルディスカッション等を通じて、将来の自己実現や意思決定ができるようサポートした。また、今後実施を予定している『学びの指標アンケート』では、個々の生徒の状況を日頃の指導にフィードバックできるようにしたい。	引き続き、全教育活動を通じ自己肯定感の醸成と高揚を目標とし、実体験を伴うキャリア教育を推進する。「学びの指標アンケート」について、質問事項に加えるべき新たな観点があるか、検討する。
教育活動	クラス運営	7 通常連絡・保護者懇談会の活用し、保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。	B	ホームルーム担任を中心に欠席の多い生徒の家庭とは特に密に連絡を取り合い、家庭との情報共有ができていた。毎日のSHRで実施されるドリルは、学校生活のリズムをつくり、生徒の学習への意識付けに良い影響を及ぼしているが、遅刻をしたり、欠席をする生徒もいる。	欠席の多い生徒に対しては、家庭と情報を共有するとともに、必要に応じて午後部の授業の選択や通信制での単位修得を勧めるなど個々に応じた履修指導を行い、卒業と進路の実現に向けて支援する。
	生徒会活動などの充実	8 生徒が主体的に生徒会活動・部活動に取り組むことができるよう支援ができたか。	B	予定された行事を役員が中心となり例年どおり行うことができた。生徒会長が学校説明会で自らの体験を中学校の教員向けにスピーチをするなど役員の成長した姿を見ることができた。今後は生徒の人数の減少により役員だけではなく一般の生徒の生徒会活動に対する意識をどう高めていくのが課題である。	各行事について役員だけではなく担当の委員会を決めるなど、生徒が主体性を発揮できるような工夫を行う。
学校運営	円滑な学校運営	9 生徒データの管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	B	生徒の基本的データや生徒の状況をは、年度当初に職員間で共有した。職員が一致した指導を進めるため有効であった。今後も継続していきたい。なお、共有したデータのアップデートを適時適切に行う必要があった。	データの更新を適切に進めていきたい。また、セキュリティーポリシーに基づいた情報の管理を慢心することなく徹底する。
		10 本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	A	学習活動や行事については、生徒の状況を把握し、一人ひとりの成長につながるよう計画実行した。授業や行事等への生徒の安定的な出席が課題である。	現状維持ではなく、新たな視点を加えるなど見直しや改善を図る。
	開かれた学校づくり	11 学校公開の内容の充実を図り、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々の学校への理解)	A	学校説明会・体験授業には申し込みでオンラインフォームを活用するなどの工夫をし、中学生の保護者、生徒の参加者が例年よりも増え、関心を深めてもらった。授業体験の参加者について中学校側が把握していないケースがあり、当日欠席者への対応に苦慮した。	体験授業については参加申込方法をオンラインフォームで行うことは継続する。中学校側には一括入力を依頼し、参加者については中学校側に把握していただくことにする。
		12 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	文化祭や生徒生活体験発表大会での発表において、会場視聴および作品展示への協力等により、夜間部の活動を理解を深めてもらった。夜間部独自の活動については連携はない。	夜間部独自の活動において同窓会や教育振興会との連携した取組が可能か検討する。